

第30回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	平成23年8月5日(金) 午後4時10分～午後5時30分
開催場所	滝川市役所3階 302会議室
出席状況	<p><b>【委員】</b> 出席：石井委員長、伊藤副委員長、岩本委員、樫原委員、加藤委員、中村委員、藤井委員、水戸委員、山田委員</p> <p><b>【事務局（滝川市）】</b> 市民生活部 庄野参事 〃 暮らし支援課 橋本主査、畠山主事</p>
議事内容	<p><b>1. 開会</b></p> <p><b>2. 年次報告書の作成及び公表について</b> 事務局から、毎年、市が作成・公表することになっている年次報告書について、前回会議で「たきかわ環のまち物語 年次報告書(平成22年度版) (案)」を示したところであるが、そのときに指摘された点などを中心に修正を行い、改めて公表案として提示し、公表に向けた準備を進めて良いかの最終確認をとった。</p> <p>委員) 商工会議所等との共催で行ったイベントについて記述漏れがあるので、それについて追加すべきではないか。 事務局) 追加して記載することとする。 →そのほか、さらに修正意見等があれば8月15日までに事務局に提出していただくこととし、それをもって公表を実施することとする。</p> <p><b>3. 評価シートについて</b> 昨年度までの委員会の評価プロセスについて、当時、委員から年次報告書だけでは評価材料に乏しいといった意見があったことから、事務局で、計画と対照しながら、これまでの取組がどういった状況で進められてきているのかがわかるよう別添の評価シート(資料3)を作成し、評価の方法を中心に議論が行われた。</p> <p>委員長) これまでは、どちらかといえば、年次報告書を元にもつばら目標数値の達成状況などについて評価をしていたが、これからは、総合的に定性的なものも含めて、計画に書かれている内容に照らして取組がどうであるのかといった評価が必要ではないかという意見があったことから、各施策について点検をしながら、これまでこれしかできていないということだけでなく、むしろ今後、来年、再来年に向けてこういうことをやるべきであるという視点からも評価を進めていくということで、今回、評価方法を見直そうということである。</p> <p>「実施状況」欄のA B C Dのそれぞれの定義についても、前向きなニュアンスになるような項目に設定するよう設定をしたところである。</p> <p>「これまでの取組及び今後の実施予定の取組」欄に記載している内容について、年次報告書で取り上げられている項目と取り上げられていない項目が混在していて、これらの違いがわかりにくいので、そういったものを色分けなどして区分して整理してほしい。</p> <p>また、例えばリサイクル推進員など昔から継続しているものについては、その経過などを情報として掲載しておく必要があるのではないかと。</p>

今回、評価作業として皆さんにやって欲しいことは、滝川市に自己評価として実施評価欄を埋めてもらう、それに対して皆さんがその評価がどうなのかという意見を出してもらうということであり、そのなかで、もっとこういうことをやった方が良いのではないかとといった前向きな意見をどんどん出していただくということにしたい。  
そういったことから、今回の委員会ではこういった評価の仕方でよいかということを議論していただきたい。

委員) 評価作業の中では、市のやっていることに単に文句をつけるということではなく、例えば評価が悪いといった場合、どうして悪い評価になるのかそれはそれなりの理由があるはずなので、その点を探っていく必要があるのではないかと思います。単に頑張っていないということだけではなく、うまくいかない理由がある場合もあると思うので、仮に理由が見つからないときでも、ではどこを探っていけばよいのかといった前向きな議論につながるのではないかと思いますので、うまくいかなかった理由についても自己分析して、その情報が欲しい。

事務局) 評価を次につなげていくということが大変重要であることから、指摘のあったとおり、何が問題なのかという点については、明らかにしていくよう努めていきたい。

委員長) この評価は、主に行政(滝川市)の取組を対象として評価するということになるが、行政以外にも市民や事業者といった主体があって、例えば場合によっては、行政が仕掛けることで市民や事業者の動きにつながるといったケースもある。行政の立場からこれらの民間部門に対する評価という要素も入れても良いと思う。

ひとつ提案だが、委員の皆さんには市民の立場から、自己評価的な分析をしていただく、あるいは事業者としてどうであったのかとか、そういった視点から考察していただくということも前向きな議論を進める上では意義があると思う。そうすると、それぞれの立場から意見を出し合うということにもつながるのではないかと。

事務局) いただいた意見をもとに、評価をより充実させるためにどういった整理の仕方が良いのかを検討していきたい。確かに、行政だけを対象とした一面的な評価で終わらせずに、他のセクターとの総合的な評価が表現できるような工夫があると、より良い評価になる。

委員) 行政の取組だけでなく、民間団体の取組のなかでも自己評価が疎かになり、単に達成感だけで満足しているような例もあるので、創設されるたきかわ環境ネットなどでもそういった団体間の意見交換などを通じて、評価作業について見直されていけばよいと思う。

委員長) 最初は事務局との打合せの中で、物語ごとにワーキンググループを作って徹底的に議論をしてはどうかという案もあったが、日程的にも作業量としてもかなりきついということで、そこまでやるのは断念したのだが、事務局と相談しながら、次回以降、皆さんにわかりやすく評価作業をしていただけるような手法を考え、提示していきたい。

委員) 各評価に対しては、なぜこの評価になったかという理由付けについても、ある程度示していくべきと思う。

委員長) 今回の評価の観点としては、あまり個別に厳密に各事業の取組の成果だとか

そういったものを詰めていくというよりは、大枠の方向性に沿った事業が成されてきているかだとか、何が足りないのかといった観点がメインなので、そこはあまり突き詰めるというのは難しい面はあるが、なぜ、Aなのか、なぜBなのかといった理由を示すことは必要であることから、それについてはしっかりと記述すべきである。

委員) ごみの問題でいえば、平成15年に一気にごみの取組が進んだ。しかし、あれから10年近くが経過して、かなり意識が緩んできたという側面もある。今一度、自分も市民の立場から、自己評価してみて、どうしていくべきかということを考えてみる良い機会となるかも知れない。

#### 4. 評価報告書について

評価報告書の提出について、次の内容で事務局から説明を行った。

事務局) 1年を通じて、この委員会では最終回(第4回)に市長に対して評価報告書を提出することになるが、昨年度までは前年度(単年度)の評価だったんですが、今年はどういった先ほどの評価シートの作成もあることから、平成18年度～平成27年度までの期間期間に対する進捗状況を含めた評価に変更することとして、冒頭の文言修正を考えている。スタイルについては、概ねこれまでと同じ内容になるが、評価と提言の二本立てになる。特に提言については、市長に直接、こういったことをやっていくべきという委員会の意思表示をしていただき、場合によっては予算に反映しながら、施策の実現に結びつけるといった場合もありうる。

委員長) こういった趣旨で良いと思うが、今後のスケジュールの確認をしたい。

事務局) 評価シート案の作成などを経て、次回委員会を9月いっぱいに行い、そこで評価とともに、提言に向けたアイデア出しなどをしていただき、大枠をまとめた上で、評価報告書の作成を行い、10月中の第4回委員会において市長へ提出をしていただくようなスケジュールを想定している。

#### 5. その他

事務局から配付資料に基づき、「たきかわ環境ネット」の構築について説明を行った。

#### 6. 閉会